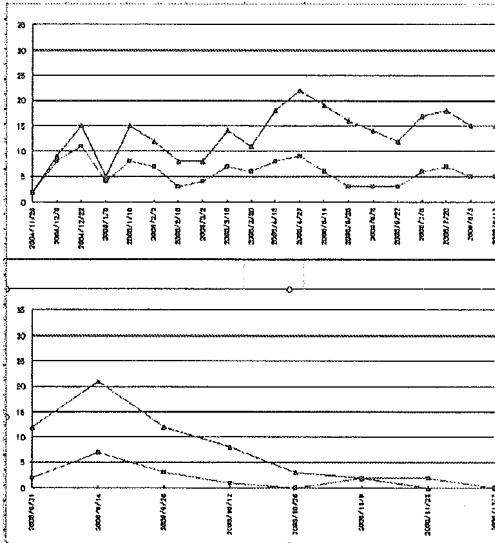


検査別分類箇		2005年01月～2005年12月		
細菌	指定なし			
性別	指定なし			
入院外来	指定なし			
診療科	指定なし			
病歴	指定なし			
検査材料	指定なし			
固	指定なし			
薬剤	指定なし			
感受性	指定なし			
同一患者集計方法	重複削除			
菌名	等出菌	気管内挿毛細胞粘液	その他(呼吸)	自
Yeast	55	1	4	0
α-Streptococcus	133	6	6	0
β-Streptococcus	0	0	0	0
γ-Streptococcus	15	1	4	0
Streptococcus agalactiae	8	0	1	0
G群β-Streptococcus	1	0	1	0
Streptococcus pneumoniae (PRSP)	2	0	0	0
Streptococcus pneumoniae (PISP)	3	0	0	0
Streptococcus pneumoniae (FSSP)	5	0	0	0
Enterococcus sp.	1	0	0	0
Enterococcus faecalis	8	0	0	0
Staphylococcus aureus	1	0	0	0
Staphylococcus aureus (MRSA)	55	6	3	0
Staphylococcus aureus (MSSA)	18	0	0	0
Staphylococcus coagulase negative (CNS)	7	0	2	1
Neisseria sp.	50	2	1	0
Moraxella (Granulicella) catarrhalis	7	0	0	0
Escherichia coli	7	0	0	0

7. PIDでグラフが2枚に分かれるときに軸のスケールが違うのは、グラフとしての意味を損ねます。



以上、何卒宜しくご検討お願い致します。  
この後、田中様には、DBのbackupを分割して解析用に送ります。検証後すぐにbackupしたものと、その後で自動入力を再起動し、一部残っていたデータの取り込みに成功した後のDBを両方送ります。暗号化してあります。何卒宜しくお願い致します。

藤本 淳

Shuhei FUJIMOTO, MD, PhD.  
Dept. of Microbiology, Graduate School of Medicine, Gunma University  
sfujimoto@med.gunma-u.ac.jp

phone +81(27)220-7997

fax +81(27)220-7986

2006/03/06

2006/03/06

## 資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 54 / 108

『厚生労働科学研究費補助金(医療技術評価総合研究事業)「院内感染の防止のための監視体制の整備、細菌検査室の機能向上に関する研究』に係る、中小規模病院感染症監視システム開発、SHIPL V130 R2 の検証と利用促進のための協議

日時: 平成 18 年 1 月 26 日(木) 午後 2 時～5 時

場所: 日高病院(群馬県高崎市中尾町 886 )検査室

議題: ①中小規模病院感染監視システム(SHIPL) V130 R3 動作検証

② SHIPL の利用促進のための協議、活用のための実習

③ その他

参加者 日高病院 八束技師長、群馬大学 藤本

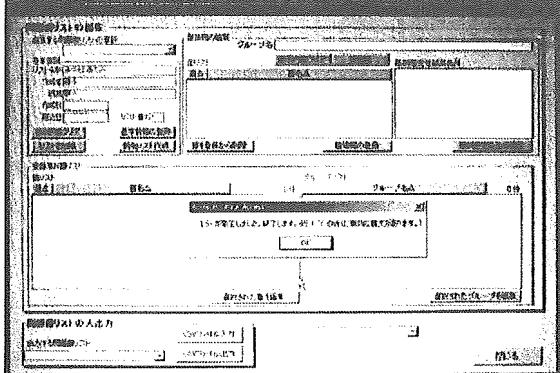
### 1. SHIPL の動作検証

#### (ア) 病棟情報の設定

病棟情報の設定で送信された病棟コードがプルダウンリストに表示されるようになって設定漏れが防げるようになっただが、全コードが病棟名に対応しているかどうかの把握は必ずしも容易でない。  
既に選択されたコードはプルダウンリストに表示されないようにすると 1 対 n(n>1) の対応も防げ、かつ、指定漏れもなくなって便利だろう。

#### (イ) 問題菌リストの作成部分に不具合があった

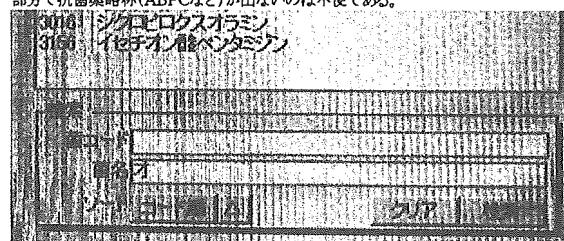
① 新規リスト作成を押す前(リスト番号が空欄)に基本情報の登録を押すとエラーが出る。



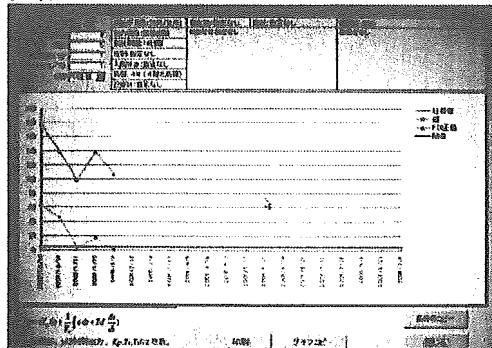
② 基本情報の登録後、菌情報の編集から菌情報の登録をすると登録済み

リストの件数は 1 件となるが、菌リストに菌名が現れない。編集する問題菌の選択でプルダウンリストから基本情報を登録した菌を選ぶと表示されるようになる。

③ 薬剤感受性結果条件入力時、抗菌薬の選択、検索部分の表示が菌名、菌コードになっている。(薬剤(抗菌薬)名、同コードが正しい。)また、この部分で抗菌薬略称(ABPCなど)が出ないのは不便である。



(ウ) PDIデータ解析で問題菌を指定すると正しくない値が表示される。下の例では、MRSA+(S. aureus ^ MPIPC=R)+(MSSA ^ MPIPC=R)をMRSAとして、問題菌に登録している。2週間に60件という集計がされている。(異常に多い。)



## 資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 55 / 108

(二) 検査材料別分離菌では検査の対象となった検体提出患者数、総検体数、菌陽性患者数、陽性検体数などが集計されるようになったが、病棟別分離菌では、病棟ごとの検体提出患者数、総検体数、、などが集計されていない。感染状況マップでは把握可能であるが出来れば表中に出来れば表中に良いいだろう。(すでに wish list に入っている)

## 2. SHIPLの利用促進のための協議、活用のための実習

- (ア) 感染状況マップの追加機能(期間指定、リストの出力)でこれまで、毎日 1~2 時間かけて行ってきたデータ入力の作業を行わなくても同等の出力が得られる。

(イ) 菌の異常集積も、正しく表示されるようになり、ほとんど以上が表示されなくなり、見やすくなった。

(ガ) 問題菌のリストが作れるようになり、任意の菌が検索されている人や検体を感染状況マップを用いて簡単に検索できるようになった。(問題菌のリストを作りをする部分の名称が「メインテナанс」となっていて、近寄りがたい感じがする。オプション設定などもうすこし優しい感じがする名前が良いかもしない。) ということであった。感染対策委員会に資料を提出できるように全体の動作等について実習と不明点の説明を行った。

以上

平成18年1月26日(木)

群馬大学大学院医学系研究科生体防御機構学講座細菌感染制御学 藤本 修平

「厚生労働科学研究費補助金(医療技術評価総合研究事業)「院内感染の防止のための監視体制の整備、細胞検査室の機能向上に関する研究」」(中小規模病院感染症監視システム(SHIPL)開発に関する研究)、SHIPLの動作状況の調査、意見交換。

日時 平成17年5月26日(木)

午後2時～午後4時10分

場所 きぬ医師会病院様

(茨城県水海道市新井木町13-3)

出席者 きぬ医師会病院

Page 5

- 議題等

  1. SHIP1設置、管理状況の調査
  2. SHIP1の動作状況調査、V1.11へのupdate、再検証
  3. SHIP1の管理、利用についての調整、協議
  4. 装置などの調査
  5. その他



1. SHIPL設置、管理状況の調査
    - ① サーバーは一般検査室に設置されていた。
    - ② SHIPLの管理は、検査室、津巻技師が行っている。
    - ③ 検査室は江東微研様のプランラボで全員、江東微研の職員である。
    - ④ 病院は(約)124床。
  - ⑤ 感染対策委員会は呼吸器科大塚先生を委員長として看護師2名、検査科技師、薬局薬剤師、栄養科栄養士、放射線科技師、リハビリ科療法師各1名、事務2-3名よりなっていて、月1回定期的に開かれている。
  - ⑥ 現在、CRP、WBCを手入力している。江東微研様の担当者からの指示であるとのこと。生年月日は自動入力に入る。症状もチェックがあれば入る。
  - ⑦ 感染対策(衛生)委員会は、院長先生(内科)、各病棟の看護師、検査科技師、薬剤師、栄養師からなっている。医師は院長先生のみ。定期的な会合を持ち、患者ペースでMRSA等の問題となる菌の検出経過を監視している。
  - ⑧ 感染対策の資料は、現在、江東微研様からの領収書を用いている。
  2. SHIPLの動作状況調査

— 1 —

- ① 通常(自動入力)  
正常に機能していた。

資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 56 / 108

## ② 本体機能

- (ア) 鹿の異常集積自動検出は、正常に機能しているように見えたが、病棟名がコードで表示されていた。(バージョンアップ後も同様であったので、後で詳しくのべる。)

(イ) PDIは正しく表示された。積分の係数を変更しても、正しく表示されるようであった。(バージョンアップ後、立川中央病院様と同様の問題が出現した。)

(ウ) 感染状況マップは病棟の位置情報が未入力であったため表示されなかつた。

③ 本体のupdate。  
updateは正常に終了した。デスクトップのショートカットも設定した。

④ 本体の再検査。  
(ア) 鹿の異常集積などで、病棟名が名称でなくてコードで表示される部分があつた。  
→ 設定画面の上部に行かれていた。

箇の異常集積ではコードと名称が混在する。(これが一番問題か)

感染情報レポートはコードが表示される

#### 感覚情報】第十一 Staphylococcus aureus (L.)

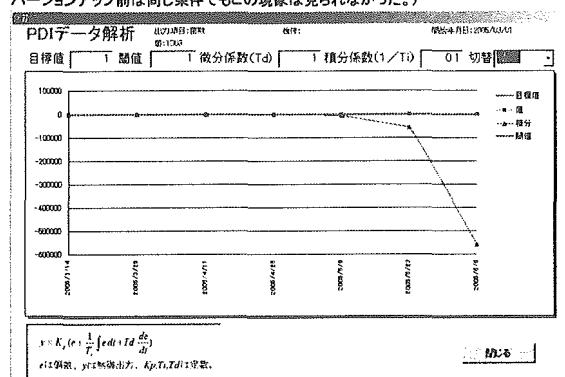
羽根	氏名	登録ID	耳鈴	枝鈴
		種付番号		
103	佐藤 雅子	205004051310	83	黒銀波
		205004051310		
103	佐藤 雅子	205004051310	86	黒銀波
		205004051310		
103	佐藤 雅子	205004051310	83	黒銀波
		205004051310		
103	佐藤 雅子	205004051317	83	黒銀波
		205004051317		
103	佐藤 雅子	205004051317	20	黒銀波
		205004051317		
103	佐藤 雅子	205004130203	3	黒銀波
		205004130203		
104	佐藤 雅子	205004140578	70	黒銀波
		205004140578		
102	佐藤 雅子	205004140591	92	黒銀波
		205004140591		
102	佐藤 雅子	205004150124	70	黒銀波
		205004150124		
104	佐藤 雅子	205004230100	73	黒銀波
		205004230100		
103	佐藤 雅子	205004263069	84	黒銀波
		205004263069		

#### 病棟別菌検出状況は名稱

病棟別菌檢出狀況 1/1

菌名	BF	DF	CF
<i>α</i> -Streptococcus	4	6	10
<i>β</i> -Streptococcus pneumoniae	0	0	1
Enterococcus sp.	1	1	3
<i>Staphylococcus aureus</i>	1	1	1
<i>Staphylococcus aureus</i> (MRSA)	2	5	2

(イ)PIDの積分で係数に0.1などを入れると異常な数字が表示される。  
バージョンアップ前は同じ条件でもこの現象は見られなかった。)



(ウ)IDと検体番号に同じものが使われていた。

进料单号	收料单号	组件号	ID	力士乐管路	力士乐名	收料单出日	收
450001	CD0000130956	CD0000130956	001			2006-03-01	
450001	CD0000130959	CD0000130959	001076			2006-03-01	
450001	CD0000130970	CD0000130970	001078			2006-03-01	
450001	CD0000130970	CD0000130970	011022			2006-03-02	
450001	CD0000130971	CD0000130971	045344			2006-03-02	
450001	CD0000130972	CD0000130972	07238			2006-03-02	

### 3. 病院様との調整

- ② IDと検査番号に同じデータが使われている件について、カルテ番号は患者に対して“unique”だと言うことであったので、カルテ番号をIDとするようお願いした。江東歯研担当者には滝藤騎馬から伝えて頂くが、再送に関しては、検体番号をキーにIDを書き換える事が“default”で可能かあるいは上書き設定の部分で上書きを指定する必要があるが川崎橋から江東歯研の担当者に連絡をとって頂くにした。(三輪機販売してお願い致しました。)

- ② 動作、利用の方法について説明をした。菌の異常算積でpickupした菌について感染情報レポートの機能を用いて薬剤耐性パターンを調べ、院内で菌の拡散が、個別例の算積であるか予測する方法などについても説明した。
- ③ 現在江東徹研から病院様に提供している資料は詳報・大冊で病院様で全体に目を通して頂くことが難しい。このシステムの出力は焦点が絞られているので良い。と言う評価を頂いた。

#### 4. 要望などの調査

手入力について一覧入力を可能にして欲しかったが、手入力をしなくて良い事になつたので、特に望まはない。このシステムを入れるときに医師に対する説明会(江夏徹研修担当者)を開いたが、そのときに、病院についてのメリットが無いという意見があつた由。(必要があれば、医師に対する説明を行うと伝えた。)

## 5. その他

- ① update CD、update作業説明書の説明を行った。(手違いで現物を持ち帰ってしまった。後日郵送する。)
  - ② 7月に病院様説明会を行い、その場で、簡単にご利用状況を報告して頂く事をお願いした。(まとまった報告をどの施設にして頂くかは未定。)
  - ③ 今後の日程、(6月にHL7v3の説明会(希望する会社様)、7月に病院様説明会、10月に再調査、10月よりHL7v3通信(同上)、12月にまとめのための調査)を説明。
  - ④ 問題があればすぐに連絡を頂くようお願いした。
  - ⑤ mailのアドレスを頂いた。
  - ⑥ バージョンが、ファイル名でしか分からないようである。管理上、危険であるので、よく分かるところにバージョンが表示されるようにするのがよいと考えた。

以上、  
平成17年5月26日(木)

資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 58 / 108

「厚生労働科学研究費補助金(医療技術評価総合研究事業)「院内感染の防止のための監視体制の整備、細菌検査室の機能向上に関する研究」」(中小規模病院感染症監視システム(SHIPL)開発に関する研究) SHIPLの動作状況の調査、意見交換。

日時 平成17年8月5日(金) 午後1時30分～午後3時30分  
場所 きぬ医師会病院 様 (茨城県水海道市新井木町13-3)  
出席者 きぬ医師会病院 津彌様、群馬大学 藤本、

諸所等

1. SHIP1動作状況の聞き取り
  2. SHIP1の動作状況調査
  3. SHIP1の利用についての調整、協議
  4. その他

#### 1. 项目背景、创作情况

**SHIP1設置・動作状況**

(ア) SHIP1は電源を入れたままである。

(イ) 時に「つながっていない」というエラーができる。本体の再起動をしたりするが改善無く、検査会社様の問題らしいが、詳しいことは不明である。

(ウ) 現在「利用不可」ではない。

## 2 SHIPI の動作状況調査

(ア)自動入力は正常に作動しているようであった。8月4日正しく受信が行われた記録が残っていた。

(イ) IDは2005年4月よりカルテ番号が送られるようになっていることが確認できた。

(ウ)検査データ修正・検索画面で病棟診療科名が表示されないものがあることが分かった

力ナレ番号	力ナレ名	専門担当日	対応料件名	入院日	退院日	生年月日	入院料	経過料	病日
111135		2005/05/25	待機日	0	0	1920/05/16	入院	料外	
111169		2005/05/25	待機日-テ	0	0	1920/05/16	入院	料外	
110668		2005/05/24	待機日	0	0	1920/05/23	入院	料外	
110848		2005/05/24	待機日-テ	0	0	1920/05/23	入院	料外	
20919		2005/05/23	対応	0	0	1940/05/16	入院	料外	
111192		2005/05/23	待機日	0	0	1920/05/22	入院	料外	
110976		2005/05/18	待機日	0	0	1920/04/22	入院	料外	
110992		2005/05/17	対応	0	0	1920/05/16	入院	料外	
111129		2005/05/21	対応	0	0	1920/05/20	入院	料外	
111130		2005/05/20	待機日	0	0	1920/05/19	入院	料外	
000076		2005/05/01	待機日-テ	0	0	1920/05/01	待機	料外	
112344		2005/05/01	対応	0	0	1920/05/01	入院	料外	
110286		2005/05/02	対応	0	0	1920/05/01	入院	料外	
110259		2005/05/22	待機日	0	0	1920/05/21	入院	料外	
110281		2005/05/20	待機日	0	0	1920/05/20	入院	料外	
110281		2005/05/24	待機日	0	0	1920/05/23	入院	料外	

(工) Accessを用いてSHIPLのDBにODBC接続し、受信されている病棟名、診療科名をリストした。登録されていない病棟名(2F, 3F, 4F)、診療科名(599)が見付かった。

資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 59 / 108

診療科	
100	
200	
303	
401	
102	501
103	503
104	504
2F	506
3F	513
4F	599

病棟	
1F	
2F	
3F	
4F	
5F	
6F	
7F	
8F	
9F	
10F	
11F	
12F	
13F	
14F	
15F	
16F	
17F	
18F	
19F	
20F	
21F	
22F	
23F	
24F	
25F	
26F	
27F	
28F	
29F	
30F	
31F	
32F	
33F	
34F	
35F	
36F	
37F	
38F	
39F	
40F	
41F	
42F	
43F	
44F	
45F	
46F	
47F	
48F	
49F	
50F	
51F	
52F	
53F	
54F	
55F	
56F	
57F	
58F	
59F	
60F	
61F	
62F	
63F	
64F	
65F	
66F	
67F	
68F	
69F	
70F	
71F	
72F	
73F	
74F	
75F	
76F	
77F	
78F	
79F	
80F	
81F	
82F	
83F	
84F	
85F	
86F	
87F	
88F	
89F	
90F	
91F	
92F	
93F	
94F	
95F	
96F	
97F	
98F	
99F	
100F	
101F	
102F	
103F	
104F	
105F	
106F	
107F	
108F	
109F	
110F	
111F	
112F	
113F	
114F	
115F	
116F	
117F	
118F	
119F	
120F	
121F	
122F	
123F	
124F	
125F	
126F	
127F	
128F	
129F	
130F	
131F	
132F	
133F	
134F	
135F	
136F	
137F	
138F	
139F	
140F	
141F	
142F	
143F	
144F	
145F	
146F	
147F	
148F	
149F	
150F	
151F	
152F	
153F	
154F	
155F	
156F	
157F	
158F	
159F	
160F	
161F	
162F	
163F	
164F	
165F	
166F	
167F	
168F	
169F	
170F	
171F	
172F	
173F	
174F	
175F	
176F	
177F	
178F	
179F	
180F	
181F	
182F	
183F	
184F	
185F	
186F	
187F	
188F	
189F	
190F	
191F	
192F	
193F	
194F	
195F	
196F	
197F	
198F	
199F	
200F	
201F	
202F	
203F	
204F	
205F	
206F	
207F	
208F	
209F	
210F	
211F	
212F	
213F	
214F	
215F	
216F	
217F	
218F	
219F	
220F	
221F	
222F	
223F	
224F	
225F	
226F	
227F	
228F	
229F	
230F	
231F	
232F	
233F	
234F	
235F	
236F	
237F	
238F	
239F	
240F	
241F	
242F	
243F	
244F	
245F	
246F	
247F	
248F	
249F	
250F	
251F	
252F	
253F	
254F	
255F	
256F	
257F	
258F	
259F	
260F	
261F	
262F	
263F	
264F	
265F	
266F	
267F	
268F	
269F	
270F	
271F	
272F	
273F	
274F	
275F	
276F	
277F	
278F	
279F	
280F	
281F	
282F	
283F	
284F	
285F	
286F	
287F	
288F	
289F	
290F	
291F	
292F	
293F	
294F	
295F	
296F	
297F	
298F	
299F	
300F	
301F	
302F	
303F	
304F	
305F	
306F	
307F	
308F	
309F	
310F	
311F	
312F	
313F	
314F	
315F	
316F	
317F	
318F	
319F	
320F	
321F	
322F	
323F	
324F	
325F	
326F	
327F	
328F	
329F	
330F	
331F	
332F	
333F	
334F	
335F	
336F	
337F	
338F	
339F	
340F	
341F	
342F	
343F	
344F	
345F	
346F	
347F	
348F	
349F	
350F	
351F	
352F	
353F	
354F	
355F	
356F	
357F	
358F	
359F	
360F	
361F	
362F	
363F	
364F	
365F	
366F	
367F	
368F	
369F	
370F	
371F	
372F	
373F	
374F	
375F	
376F	
377F	
378F	
379F	
380F	
381F	
382F	
383F	
384F	
385F	
386F	
387F	
388F	
389F	
390F	
391F	
392F	
393F	
394F	
395F	
396F	
397F	
398F	
399F	
400F	
401F	
402F	
403F	
404F	
405F	
406F	
407F	
408F	
409F	
410F	
411F	
412F	
413F	
414F	
415F	
416F	
417F	
418F	
419F	
420F	
421F	
422F	
423F	
424F	
425F	
426F	
427F	
428F	
429F	
430F	
431F	
432F	
433F	
434F	
435F	
436F	
437F	
438F	
439F	
440F	
441F	
442F	
443F	
444F	
445F	
446F	
447F	
448F	
449F	
450F	
451F	
452F	
453F	
454F	
455F	
456F	
457F	
458F	
459F	
460F	
461F	
462F	
463F	
464F	
465F	
466F	
467F	
468F	
469F	
470F	
471F	
472F	
473F	
474F	
475F	
476F	
477F	
478F	
479F	
480F	
481F	
482F	
483F	
484F	
485F	
486F	
487F	
488F	
489F	
490F	
491F	
492F	
493F	
494F	
495F	
496F	
497F	
498F	
499F	
500F	
501F	
502F	
503F	
504F	
505F	
506F	
507F	
508F	
509F	
510F	
511F	
512F	
513F	
514F	
515F	
516F	
517F	
518F	
519F	
520F	
521F	
522F	
523F	
524F	
525F	
526F	
527F	
528F	
529F	
530F	
531F	
532F	
533F	
534F	
535F	
536F	
537F	
538F	
539F	
540F	
541F	
542F	
543F	
544F	
545F	
546F	
547F	
548F	
549F	
550F	
551F	
552F	
553F	
554F	
555F	
556F	
557F	
558F	
559F	
560F	
561F	
562F	
563F	
564F	
565F	
566F	
567F	
568F	
569F	
570F	
571F	
572F	
573F	
574F	
575F	
576F	
577F	
578F	
579F	
580F	
581F	
582F	
583F	
584F	
585F	
586F	
587F	
588F	
589F	
590F	
591F	
592F	
593F	
594F	
595F	
596F	
597F	
598F	
599F	
600F	
601F	
602F	
603F	
604F	
605F	
606F	
607F	
608F	
609F	
610F	
611F	
612F	
613F	
614F	
615F	
616F	
617F	
618F	
619F	
620F	
621F	
622F	
623F	
624F	
625F	
626F	
627F	
628F	
629F	
630F	
631F	
632F	
633F	
634F	
635F	
636F	
637F	
638F	
639F	
640F	
641F	
642F	
643F	
644F	
645F	
646F	
647F	
648F	

箇名	10	11	12
エラーコード	3	5	4
エラーコードの数	5	6	2
Step-downの数	0	1	0
Step-downの原因 (BREAK)	5	3	13
Step-downの原因 (NO BREAK)	0	0	0
断続回数	2	1	3
モード (断続回数) (自動回復)	2	0	0
モード (断続回数) (手動)	3	1	0
オーバルギン	0	2	0
オーバルギンの数	0	0	1
オーバルギンの原因	0	0	1
オーバルギンの回数	0	0	1
プロセス回数	0	1	1
プロセス回数 (初期回数)	0	1	1
荷電不足	0	0	1
荷電不足の原因 (電池)	1	0	1
荷電不足の原因 (バッテリ)	0	0	0
荷電不足の回数	1	0	0
電圧低減回数 (電池)	2	0	2
電圧低減回数 (バッテリ)	0	0	0
電圧低減回数 (バッテリ)	0	0	0
電池充電	0	1	0
電池充電回数	0	1	0
電池充電回数 (バッテリ)	2	0	1
モード (充電)	0	0	1
合計	56	27	42

印刷包装

项目	2015年1月-2015年2月	数据材料	稳定性
性状	淡黄色	图	稳定性
入阴外泄	无	图例	稳定性
持续时间	稳定性	稳定性	稳定性
同-患者真菌方法	接种+显色		

床被节肢动物情况1/1

印制信息		设计说明	设计特征	设计原因
明胶	作为水凝胶的溶剂	稳定性好	稳定性好	
鱼胶	鱼胶凝胶	稳定	稳定性好	
人胰岛素	人胰岛素	稳定性好	稳定性好	
猪胰岛素	猪胰岛素	稳定性好	稳定性好	
胰岛素笔	胰岛素笔	稳定性好	稳定性好	
胰岛素笔方法	胰岛素笔方法	稳定性好	稳定性好	

MRSAだけ見ると、

病檢另面檢出狀況1/1

菌名	2F	3F	4F
Staphylococcus aureus (MRSA)	5	3	13
合計	6	3	13
印加菌定			
時間	2005年01月-2005年10月		
性別	指定なし		
入院外汎	入院		
診療科	指定なし		
同一患者毎回方法 結果なし			

病棟別薦19:1状況1/1

	RF	SF	AF
Highlyducible sensor (WPSA)	6	3	13
合計	9	8	13
<b>印刷機種</b>			
複合機	4台(1月～3月新規採用)		
複合机	複合机		
入院外来	入院		
管理科	複合机		
同一患者統計方法	並用統計		

診斷另分前菌 1/1

品名	内筒	外筒
High-Density Polyethylene (HDPE)	10	1
合計	10	1
印刷指定		
用語	2006年07月～2006年08月	
性別	籠置弘	
入院外来	入院	
診療科	籠置弘	
同一患者登録方法	直接登録	

資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 62 / 108

診療科別別割額算1/1		内因	外因
番名			
Streptococcus suisの感染症	18	1	
合計	18		1
申請者定			
期間	2015年07月~2015年08月		
性別	鑑定URL		
入院外 症	未記入		
診療科	鑑定URL		
同一患者集計方法	重複削除		

模块部分题目1/1

菌名	寄生虫	寄生
<i>Stephanoascus exetus</i> (WHA)	18	3
金针孢	12	2

四  
印刷技术

时期	2006年07月—2006年08月
性别	指定性
入院科室	入院
转科	指定性
同一患者统计方法	按住院病人

檢体單的範例1/1

菌名	寄出處	類別
<i>Staphylococcus aureus</i> (MRSA)	TB	3

二三

印制者	2005年02月～2005年03月
性别	指定ZL
入院外表	入院
诊疗科	接诊处
同一患者就诊时间	急诊接诊

この時期のMRSAを見ると重複がある。

検査情報一覧		SARS-CoV-2			
研修	氏名	学年	性別	年齢	検査結果
104	田中 智也	07254	男	22	陽性
		200507027301401			
102	佐藤 大	102261	男	60	陽性
		2005070730001			
104	佐藤 大	102219	男	74	陽性
		20050701431261			
102	佐藤 大	100684	男	76	陽性
		20050702503009			
102	佐藤 大	111977	男	74	陽性
		2005070101403			
102	佐藤 大	112265	男	77	陽性
		2005071921479			
103	佐藤 大	112357	男	86	陽性
		2005070301262			
103	佐藤 大	115817	男	86	陽性
		20050710130492			
103	佐藤 大	116837	男	86	陽性
		2005071931482			
104	佐藤 大	97681	男	69	陽性
		200507043121			
104	佐藤 大	126911	男	69	陽性
		2005072917042			
104	佐藤 大	135611	男	69	陽性
		20050801191343			
104	佐藤 大	205658	自殺		
		2005071231134			
104	佐藤 大	205658	男	64	陽性
		20050713300907			
104	佐藤 大	205658	男	94	陽性
		2005071931247			
104	佐藤 大	305119	男	65	陽性
		2005072917042			

體後側面|東土 *Spathodeaceva sumbae* (MGSAX1200)

姓名	身份证ID	性别	民族	入院日	住院
操作	操作ID	操作名	操作名	操作日	退院日
102	05831 2006071630929	76	蒙古族		
104	67710 2006070401260	82	蒙古族		
104	67710 200707131322	82	蒙古族		
104	67710 2007072521260	82	蒙古族		

104

合計 申請回数	
期間	2003年1月～2005年1月
性別	無記入
入院外来	公私
特徴	既定化
(四)一歩箇条式申方法	出願(△)

### 3. SHIPLの利用についての調整、協議

利用法、今後の展開について津霸様と調整した。

- (ア) 菌に関する知識のない人に使えるようにして欲しい。どの菌が問題なのか判断することができない。(菌や薬剤に関する知識情報DBが参照できるような組みが必要かも知れない。また、異常累積の中から、sp. や病原性を持たない稀に検出される菌の表示を省く仕組みが必要かも知れない。)

(イ) 病原棟と外来を同時に表示する算計があると便利。

(ウ) 修正画面、データ入力画面でなくてテーブルで入力できると便利(以前畠田中央病院より同じ希望あり。)。

(エ) 菌の異常累積、感染情報レポートの連携がスムースだと良い。

(オ) 特定の菌の検出されている患者さんを探すのにも感染情報レポートが利用できることを示した。

(カ) 年間推移表の分離菌で重複排除(月単位あるいはJANIS準拠)を考慮する必要がある。

(以上)

平成17年8月5日(金)

群馬大学大学院医学系研究科生体防御機構学講座細菌感染制御学 藤本 修平

「厚生労働科学研究費補助金(医療技術評価総合研究事業)」「院内感染の防止のための監視体制の整備、細菌検査室の機能向上に関する研究」(中小規模病院感染症監視システム(SHIPL)開発に関する研究)、SHIPL新バージョンの動作状況の調査、意見交換。

日時 平成17年12月5日(月)

午後2時40分～午後5時

場所 きぬ医師会病院 様

(茨城県水海道市新井木町13-3)

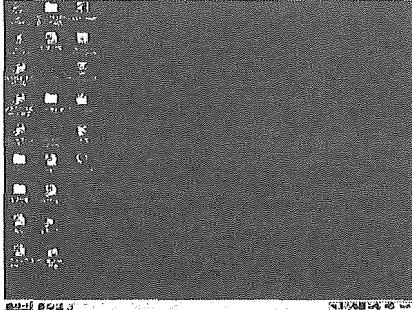
出席者 きぬ医師会病院 津勲(つは)  
篠原文雄 菅吉

辟馬大學 藤本

## 1. ミスティの性質

## 1. システムの状態

- (ア) 自動入力が起動していなかった。当初施設側の事情であると考えた。津原様からの説明ではNOSS社よりの指示のことだった。津原様の説明では、エラーが出るため、使用を停止するように指示を受けたと言ことだった。12月1日NOSS社での打ち合わせでは、検体採取日に不正があるため、データ修正を行うとエラーが出る。他の部分ではエラーは出ないと言ことであったが、津原様の説明では、他の部分でもエラーが出ると言ことで、見解に齟齬があった。本日の検証でも、エラーが出る場面があった(後述)。



(イ) 江東徹研様のフォルダーを確認した所、11月24日からのファイルが取られないまま残っていた。

資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 64 / 108

[4] MS08_001_MS08001S1EN[20061214124537000]	76 KB	Microsoft Office Ex...	2006/11/24 1454
[5] MS08_001_MS08001S1EN[20061214124537000]	86 KB	Microsoft Office Ex...	2006/11/24 1612
[6] MS08_001_MS08001S1EN[20061214124536000]	71 KB	Microsoft Office Ex...	2006/11/26 1454
[7] MS08_001_MS08001S1EN[20061214124536000]	80 KB	Microsoft Office Ex...	2006/11/28 1368
[8] MS08_001_MS08001S1EN[20061215129140272000]	90 KB	Microsoft Office Ex...	2006/11/29 1420
[9] MS08_001_MS08001S1EN[20061310156556000]	99 KB	Microsoft Office Ex...	2006/11/30 1370
[10] MS08_001_MS08001S1EN[20061214124800000]	147 KB	Microsoft Office Ex...	2006/12/01 1427
[11] MS08_001_MS08001S1EN[20061214131420000]	142 KB	Microsoft Office Ex...	2006/12/02 1431
[12] MS08_001_MS08001S1EN[20061203142220000]	109 KB	Microsoft Office Ex...	2006/12/03 1342
[RE5] MS08_001_MS08001S1EN[20061203142220000]	1 KB	Microsoft Office Ex...	2006/12/11 1341
[RE5] MS08_001_MS08001S1EN[20050406140100000]	1 KB	Microsoft Office Ex...	2006/04/06 1459

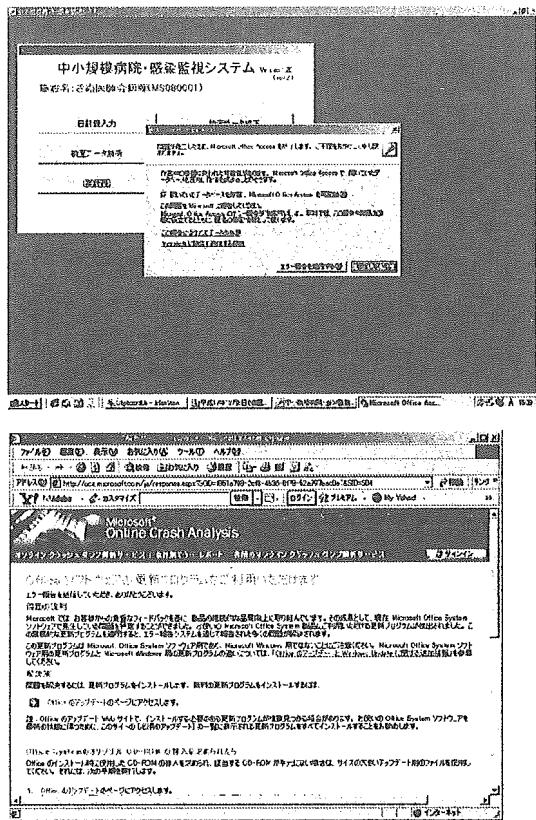
(ウ)自動入力を起動した。受信が可能であった。11月24日から、12月5日までのデータが受信された。

接続先【00001: 江直線生物研究所つくば】		最小化
接続先【00001: 江直線生物研究所つくば】		
ダイマー情報 現在時刻: 2005/12/05 14:54:58 <input checked="" type="checkbox"/> ダイマー <input type="checkbox"/> 次に <input type="checkbox"/> 休止中		今すぐバックアップ 今すぐ実行
<a href="#">接続情報</a>	<a href="#">接続情報</a>	<a href="#">リストア</a>
状況		
接続先 : 江直線生物研究所つくば ファイル名 : <input type="text"/>		
現在の処理プロセス: データチェック及び書き込み中		
処理レコード件数	1/16	チェック番号 [3627]
エラーレコード件数	[ ]	エラー項目数 [ ] エラー総数 [ ]
処理履歴 <a href="#">削除/消去</a>		

自動集計処理中		最小化									
<p><b>タイマー情報</b></p> <p>現在時間 : 2005/12/05 15:02:52</p> <table border="1"> <tr> <td>タイマー</td> <td>タイマー 操作</td> <td>休止中</td> <td>今すぐバックアップ</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="2">今すぐ送信</td> </tr> </table> <p><a href="#">施設情報</a> <a href="#">接続情報</a> <a href="#">リストア</a> <a href="#">終了</a></p> <p><b>状況</b></p> <h1>自動集計処理中</h1>				タイマー	タイマー 操作	休止中	今すぐバックアップ			今すぐ送信	
タイマー	タイマー 操作	休止中	今すぐバックアップ								
		今すぐ送信									

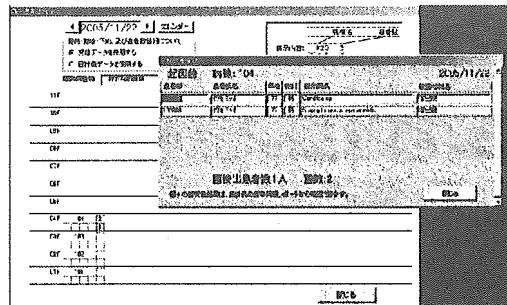
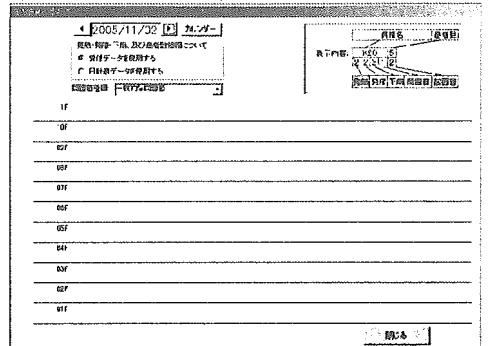
(エ) 院内機能を起動して集計表のボタンを押したところエラーが出現した。再現性があった。

資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 65 / 108



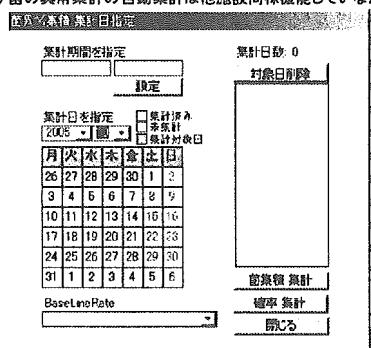
津勧様の説明では、当該のマシンで(おそらく自動入力起動中)Excelを使ってもフリーズすることがあり、検査室の職員全体の認識として「不安定」。

(オ) 病棟マップが表示されなかった。マスターの設定を行った。動作するようになった。



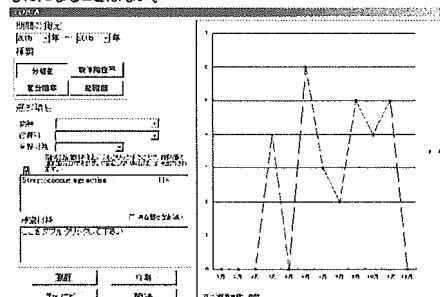
資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 66 / 108

(カ) 菌の異常集計の自動集計は他施設同様機能していなかった。

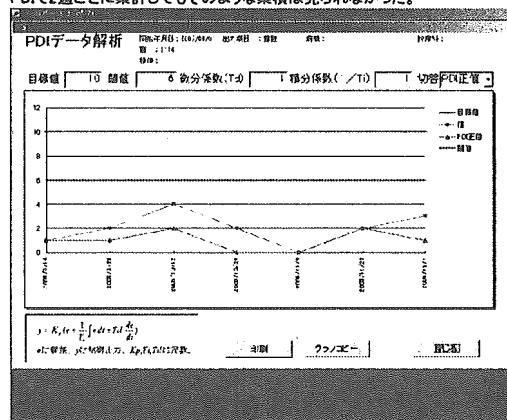


(キ) 菌の異常集積で *Streptococcus agalactiae* の集積が検出されていた。

しかし、当該期間の他の集計では2週間で11、30日で16の検出はなかったようである。年間推移表は外来も入っているが、最も多い月で6であって、2ヶ月合計でも16になることはない。

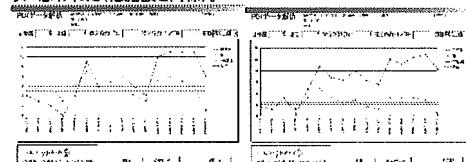


PDIで2週ごとに集計してもそのような集積は見られなかった。



いずれかの集計に問題があると考えた。

(ク) PDIの菌数、陽性患者数は異なったグラフが得られ、重複排除が機能しているようと思われた(他施設と同様)。

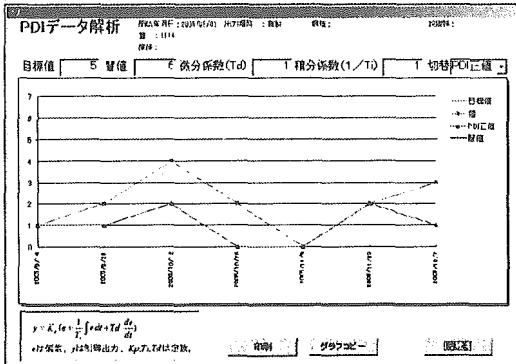
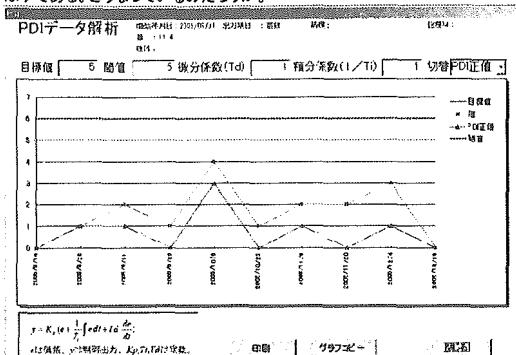


(ケ) 年間推移表の重複排除は他施設同様機能していない。

(コ) PDIの集計期間(集計値)に不明の点があった。

資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 67 / 108

8月1日を開始日にすると8月14日が最初のプロットになり、その値は0である。9月1日を開始日にすると、9月14日が最初のプロットとなり、その値は0である。それぞれ8月1日から14日、9月1日から14日を算計したのであれば0にはならないはずである。どうなっているのだろうか。



## II. SHIP-Lの利用について

- (ア) 感受性分布、感染情報レポート(?)を感染対策委員会に出している。

(イ) ① 植体ごとの提出検体数、提出患者数を出して欲しい(豊田中央様と同様)

② 菌の検出(分離)頻度を出したいので、菌陽性検体数を出して欲しい(一検体から複数菌が分離されても一つ数える。)。  
:検体別分離菌の一一番下に菌陽性検体数(菌陽性患者数)を加えるが現実的だと考えた。

③ 感染対策委員長(呼吸器内科)は、分離菌情報に興味があり、豪局長は懲罰頻度に興味がある。お二人とも熱心である。

④ 感染対策委員会に出した資料については、熱心に見て貰っている。

(ウ) 必要に応じて、豪局長、医師に薦本から説明をする機会を設けることにした。

SHIPLの利用について前向きに取り組んでおられるようだった。病院側も、薬局、医師も興味を持っているような印象であった。本体の不安定さ、重複排除など集計の数字に不安を持っているようだった。

平成17年12月5日(月)

群馬大学大学院医学系研究科生体防御機構学講座細菌感染制御学 藤本 修平

資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 68 / 108

『厚生労働科学研究費補助金(医療技術評価総合研究事業)「院内感染の防止のための監視体制の整備、細菌検査室の機能向上に関する研究」』(中小規模病院感染症監視システム(SHIPL)開発に関する研究)、SHIPLの動作状況の調査、意見交換。

日時 平成17年6月2日(木)  
       午前10時～午後12時40分  
 場所 財團法人仙台市医療センター  
       一 仙台オーブン病院 横  
       (仙台市宮城野区鶴ヶ谷五  
       丁目22-1)  
 出席者 仙台オーブン病院 飯島  
       秀弥 医師、遠藤 技師  
       群馬大学 繭本

總題等

## 1. SHIPL設置、管理状況の調査

## 2. SHIPLの動作状況調査

### 3. SHIPLの管理、利用について

#### 4. 慰留などの調査

## 5. その他

— 3 —

- SHIPL設置、管理状況の調査
  - サーバーは臨床検査室に設置されていた。
  - SHIPLの管理は、検査室、遠隔技師が行っている。
  - SHIPLの利用は、飯島先生を中心に行う。
  - 通信が不安定だったため、データの即時性が無く、また、検体（検査材料名）が入ってこないため、利用価値が不十分である。
  - 通信が不安定だった原因は、送信側のノートパソコンがスリープ(suspend または、hibernate)してしまったのであった。修正されたとのことであった（遠隔技師）。
  - 病院は330床。
  - 院内感染対策委員会は、院長、飯島先生（委員長）、各科の医師（医長クラス）、各病棟リンクナース、薬剤部長、臨床検査技師（遠隔技師）、放射線技師長、栄養課chief、事務部（庶務、および、用度）がメンバーである。月1回、第2月曜日委員会を開き、MRSNAの管理チャーター（下に一部、資料として別添）等を資料に譲り、報告書（資料として別添）を提出している。

ID	NAME	SEX	BIRTH DATE	AGE	RELATIONSHIP	EX-EMPLOYEE	SALARY	HOURS WORKED	GROSS PAY	NET PAY	TAXES DEDUCTED		NET PAY AFTER TAXES
											FEDERAL	STATE	
1000000000	John Doe	M	1980-01-01	40	Spouse	No	\$50000.00	160	\$80000.00	\$70000.00	\$12000.00	\$2000.00	\$56000.00
1000000001	Jane Doe	F	1980-01-01	40	Spouse	No	\$45000.00	160	\$72000.00	\$63000.00	\$11000.00	\$1800.00	\$59200.00
1000000002	John Doe Jr.	M	1980-01-01	40	Child	No	\$25000.00	160	\$40000.00	\$35000.00	\$8000.00	\$1200.00	\$25600.00
1000000003	Jane Doe Jr.	F	1980-01-01	40	Child	No	\$20000.00	160	\$32000.00	\$28000.00	\$7000.00	\$1000.00	\$21200.00
1000000004	John Doe III	M	1980-01-01	40	Child	No	\$15000.00	160	\$24000.00	\$20000.00	\$6000.00	\$800.00	\$13200.00
1000000005	Jane Doe III	F	1980-01-01	40	Child	No	\$10000.00	160	\$16000.00	\$13000.00	\$4000.00	\$600.00	\$8400.00

- ⑥ ICTの活動を始めている。飯島先生、遠藤技師、薬剤部長、総看護部長とround対象の部屋の頭長で、月1回現場のroundをしている。

## 2. SHIPの動作状況調査

- ① 5/31日にv1.11にupdateし、その後正常に機能していると言うことであった。(遠藤技師)

② 通信(自動入力)  
現在過帳は回復していると言うことで  
あったが、時々過帳エラーが発生する  
ようであった。内容を確認する必要が  
ある。DBを許可を得て複数し持ち掛け  
た。

### ③ 支付操作

- (ア)「ID」が入ってきてない。カルテ番号がuniqueであるという。カルテ番号のところに拭き取り検査などで「検査」などの文字が入っているレコードが見られたが、これを含めて、カルテ番号をIDに使って問題ないということであった。(飯島先生、邊野技師)。医師会隠岐センター様にフィンガルリンク社様から贈呈をして頂くことにした。

进荷番号	検査所番号	検査番号	ID	万力ルネ番号	万力
▶ 03002	20041206010001			33H-142299	1
03002	20041206020002			33H-142004	5
03002	20041206020003			33H-142005	5

- (イ)検査材料名がすべての其他材料であった。送信されたコードはすべて999で  
あった。また、診療科、病棟が送られていない。検査伝票上には記入欄があり、  
送還は、可能であるはずだと言うことだった。フィンガルリンク社様から照会  
をお願いすることとした。

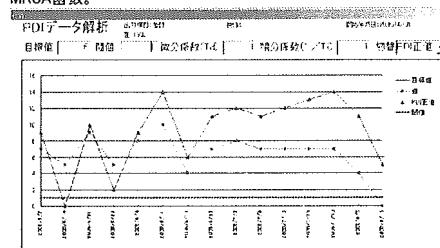
資料2 協力施設の導入利用状況調査・訪問調査 69 / 108



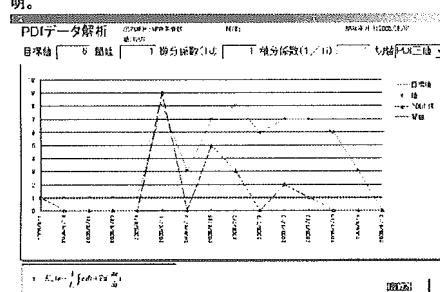


と同じ)。

MRSA菌数。



MRSA陽性患者数。IDの入力のない5月のデータで陽性患者数<菌数は原因不明。



(ケ) 築計表で重複排除が機能していない(他施設と同じ)

資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 74 / 108

実際は複数がある。				
B4	4-サ 20060	クニ 2006070400100002	49	吸出液
B4	4-サ 20060	クニ 200607160100031	49	士井の原液
B5	4-ヨ 20060	トセ 200607040100003	88	吸出液
B4	9-キ 20060	トナ 200607180100002	87	吸出液
B4	9-木 20060	トナ 200607290100004	87	吸出液
B4	9-キ 20060	トナ 200607290100006	87	カランダル 吸出液(100ml)
KU	4-ナ 20060	マ 200607210100002	82	吸出液
KU	4-ナ 20060	マ 200607210100073	82	吸出液

### 3. SHIPLの利用についての調整、協議

(ア) IDについては病院システムの7桁に合わせて新病院移行後(5月以降)のデータ

を再送する方向で遠藤技師、研究班(NOSS corp.)の両方からお願ひすることにした。

- (イ) 病棟、診療科マスターの整備(遠隔技師)を行い動作を確認した。

(ウ) 飯島医師から、菌の異常集積の期間、陽性率、検査条件、検査期間の設定、依頼患者数、菌数(患者単位の場合は、実際は陽性患者数)、確率、警告レベルの解釈、PDIの式の意味、年間推移表の動作について質問があった。説明をした。

(エ) 菌の異常集積—感染情報レポート(CSVファイルによるExcelによる加工)を遠隔医師、飯島医師に説明した。理解を得たとを考えた。(P. aeruginosaの異常集積をシステムが検出していた。遠隔医師、飯島医師もこの広がりに気づいていた。感染性パターンを用いた一覧に至るまで2~3分で完了する様子を理解して頂いた。)

(オ) 自施設データによるペースライレンターの作成と利用を10月のバージョンアップ後に行なうことを出来ることに期待する。

以上、  
平成17年8月11日(木)  
群馬大学大学院医学系研究科生体応激機序学講義細菌感染制御学 菅本 修一

『厚生労働科学研究費補助金(医療技術評価総合研究事業)「院内感染の防止のための監視体制の整備、細菌検査室の機能向上に関する研究」』(中小規模病院感染症監視システム(SHIP)開発に関する研究)、SHIP新バージョンの動作状況の調査、意見交換会

日曆 平成17年12月9日(金)

午前13時20分～午後17時

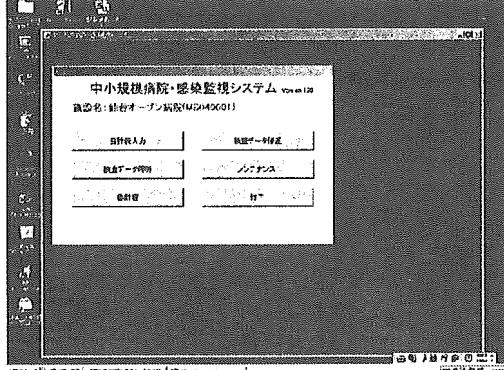
場所 財団法人仙台市医療センター 仙台オープン病院様（仙台市宮城野区鶴ヶ谷五丁目22-1）

出席者 仙台オープン病院 飯島 秀弥 医師、遠藤 技師

群馬大学 藤本

## I. SHIPL動作狀況

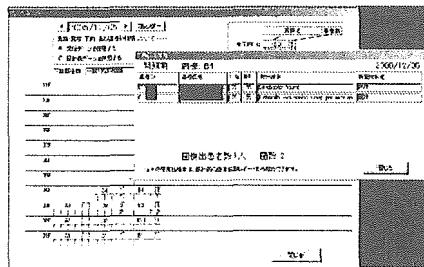
- (ア) 自動入力、院内機能が起動されていた。



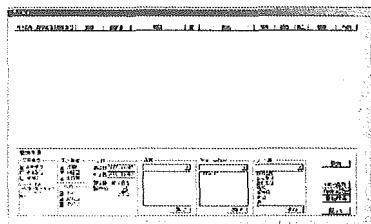
(イ)院内機能を開いて操作をしていると自動入力がタスクバーから消えた。(原因不明)

資料2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 75 / 108

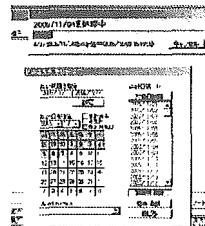




(カ) 他施設同様の異常集積の自動集計は行われていなかった。飯島先生から、集積計算、検索について質問があり対応した。自動集計が行われていないことも手伝って、集積計算、確率計算の区別、ベースラインレートを算出した後に、再計算が必要なことなどがわかった。ソート順を設定しても、毎回元に戻ってしまうのは不便という指摘があった。前回の設定が残る必要があるだろう。施設で集計したベースラインレートが検体ベースなのか患者ベースなのか両方なのか(両方でなくてはいけない)不明である。

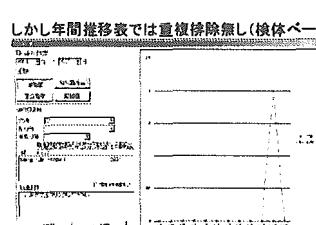


(キ) 異常集積の再計算を行ってみた。一日15秒程度であった。

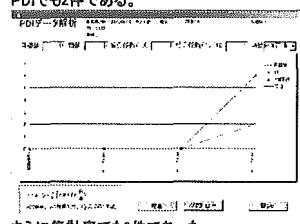


(ク) 菌の異常集積で11月19日から11月25日の間にC1病棟から *Morganella morganii* が21人中5人から検出されたことになっている。

しかし年間推移表では重複検除無し(検体ベース)で2件である。

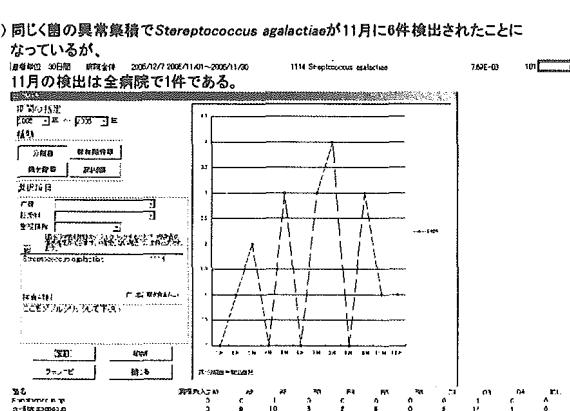


PDIでも2件である。



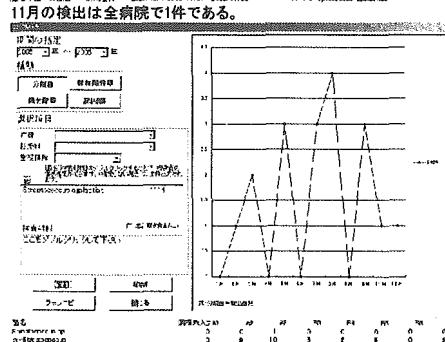
さらに集計表でも2件であった。

## 資料2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 78 / 108



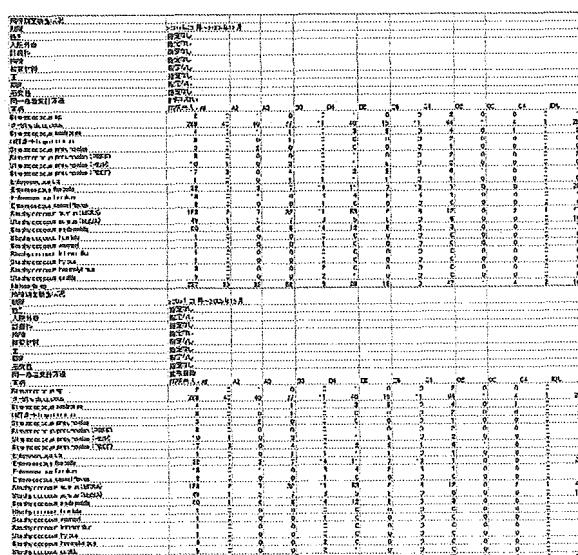
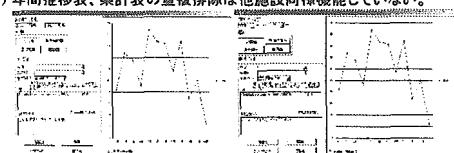
(ケ) 同じく菌の異常集積で *Streptococcus agalactiae* が11月に6件検出されたことになっているが、

11月の検出は全病院で1件である。



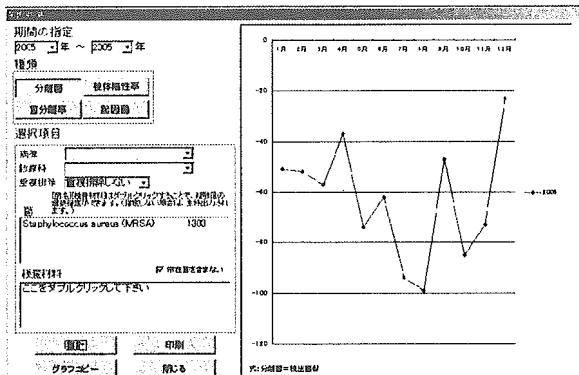
飯島先生から、菌の異常集積の結果を感染対策の資料に使うお話しがあったが、集計の信頼性に問題があるので検証が済むまでしばらく利用を見合わせるようにお願いした。

(コ) 年間推移表、集計表の重複検除は他施設同様機能していない。

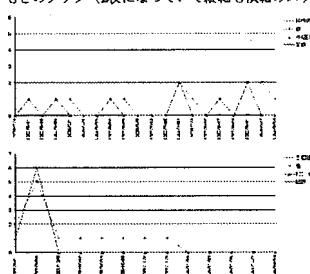


(サ) 年間推移表で常在菌を含まないをチェックした所、マイナスの値がプロットされた。  
至急対応が必要。

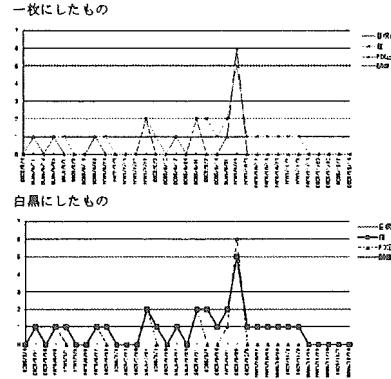
## 資料2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 79 / 108



(シ) PDIでグラフが2つに分かれてしまう。分かれたグラフのスケールが同じでない。カラーリンクしないと見づらい。折角グラフがコピーできてもうまく利用できない。という訴えがあった。スケールが異なる点については既に指摘をしているが、一つのグラフにするなどの工夫が必要だろう。暫定的にExcelにコピーしてデータシートの内容をコピーして一々する方法などについて説明した。  
もしもこのグラフ(右側になっていた機械)は機械のスケールが異なる)



資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 80 / 108



(ス)院内感染マップを病棟ごとの特定菌の検出マップとして使いたいという希望があった。現在、「古賀問題群」「荒川問題群」などを道選することは出来ても、独自の問題菌の設定(例えば、当面、MRSA、多剤耐性綠膿菌、セラチバクを監視したいので、その三つの条件を院内問題菌として登録するというような設定)が出来ない。設定できるような仕組みが欲しい。

## II. 利用状况

- (ア) PDIで病棟別のMRSAのトレンドを見ている。
  - (イ) 時間のあるときに感染情報レポートをCSV形式で耐性パターンで整理し、別に出した病棟マップにのせて菌の広がりを検討している。
  - (ウ) データをもとに介入をした所、MRSAの検出件数が減った。

### III. 利用の障害についての議論

- (7) 9月の説明会での報告で、他の施設では手入力でデータを入れているが、手入力でデータを入れると時間と費用を取られるので計算に得られる成果が少ない。そう言うことをも障害にならっているのではないか。

(イ) きちんと並べないで問題があっても気づかずにして、気づかない問題が大きな問題にならないからそれで良いという考えはだんだん通用しなくなるのではないか。

(カ) 看護師さんは自分の場所(病室)以外は余分興味がなさうである。

(エ) 病室まで立ってるらしい。

(オ) 患者さんと一緒にしている職員(チーム単位)と、患者さんの感染状況を結びつけられるような仕組みがあるといい。

(カ) インフルエンザは迅速診断が出来るので、菌名と同じように板で集積などを見ることが出来るのではないか。

以上

平成17年12月9日(金)

群馬大学大学院医学系研究科生体防御機構学講座細菌感染制御学 藤本 修平

『厚生労働科学研究費補助金(医療技術評価総合研究事業)「院内感染の防止のための監視体制の整備、細菌検査室の機能向上に関する研究」』(中小規模病院感染症監視システム(SHIFI)開発に関する研究) SHIFIの動作状況の調査・意見交換。

日時 平成17年6月1日(水)  
午後2時～午後5時30分  
場所 女川町立病院 標 (宮城県牡鹿郡  
女川町鷲見浜切山51-6)  
出席者 女川町立病院 標 阿部技師  
長、岸鴻(おのがわ)技師  
群馬大学 篠本

總題名

1. SHIPL設置、管理状況の調査
  2. SHIPLの動作状況調査
  3. SHIPLの管理、利用についての調整、協議
  4. 慶望などの調査
  5. その他



- SHIPL設置、管理状況の調査
    - サーバーは一般検査室に設置されていた。
    - SHIPLの管理は、検査室、岸澤技師が行っている。
    - 一般検査は健常科学研究所様のプランチラボで2名。生理検査などは病院職員（技師）が行っている。
    - 病院は88床。（50歳の老健が併設されている。）
    - 院内感染対策は、院長先生（内科、内分泌）、副院長先生（外科、腹部）、薬局長、放射線技師長、検査技師長、経理長、3階・4階病棟師長、外来師長、栄養課主任、リハ科主任、幕僚職2名（医事・総務）、事務長、老健師長からなる。月1回（第3金曜日）に会を含む会で、詳細な資料（本報告書の付録参照）を用意して検討を行っている。瘡瘍からMRSA、PRSP、多耐性耐熱菌群がでた場合はcohort化して管理するなどの対策をとっている。（熱心な取り組みを行っている印象であった。）
  - 感染対策の資料は、現在、江川歴研様からの転載を用いていく。

## 2. SHIPLの動作状況調査

- ① 5/30日にv1.11にupdateし、その後正常に機能していると言ふことであった。(斧澤様)
  - ② 通常(自動入力)  
自動集計でエラーがでたというログが残っていた(右図)。ログの残りの部分を示した。  
update後も正常に動いていたようであり、訪問日の午後になって自動集計でエラーがでたことが分かる。

- ③ 本体機能  
(ア)日計表入力のボタンをクリックするとエラー画面が出た。

中小規模病院・感染監視システム	
登録名: 女川立病院(MR-B4000)	
日付入力	検査データ作成
検査データ削除	メンテナンス
主な機能: 感染症登録、検査結果登録、検査結果検索、検査結果表示	

(イ) 菌の異常集積でもエラー画面が出た。

The screenshot shows a software interface titled '検査デ...タ解析' (Analysis of... Data). The 'Search Method' tab is selected, displaying options for '日別料金' (Daily Rate), '月別料金' (Monthly Rate), '日別売上の大きさ' (Size of daily sales), and '日別取扱料' (Daily Handling Fee). Below these tabs is a note: 'この一覧は、月曜日から金曜日までのデータを表示しています。' (This list displays data from Monday to Friday). At the bottom right is a 'OK' button.

(ウ)PDIでは菌名、材料名のリストがでなかつた。

PDI分析	
実計測社日の指定	実計測社日の指定
実現度	<input checked="" type="checkbox"/> 月間
	<input type="checkbox"/> 年間
実現度の指定期間	月
実現度の指定期間	年
実現度の指定期間	日
基準	標準実現度
出力項目の指定	<input type="checkbox"/> 是正
出力項目の指定	<input type="checkbox"/> 是正
出力項目の指定	<input type="checkbox"/> 是正

(エ)院内感染状況マップ  
ではエラーがでた。

The screenshot shows the 'Search Data Analysis' dialog box. The 'Search' tab is active, displaying a list of search results for the term 'VBA'. The results include 'VBA関数', 'VBAマクロ', 'VBA関数リスト', 'VBAマクロリスト', and 'VBAヘルプ'.

資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 82 / 108

(才)年間推移表でも菌名材料名のリストがでなかつた。

(九) 総計率でも箇名のリストがない

姓氏	名前	性別	年齢	誕生日
姓氏	名前	性別	年齢	誕生日

(キ)問題が多いのでDBまたはDBとの接続の問題と考え、DBの複写(許可を得て持ち帰りました。)を作成後、システムの再起動を行った。

リンクのエラーがでた。(エラーログ添付)

① おおきな黒い鳥が飛んでいた。  
② おおきな黒い鳥が飛んでいた。

これらのエラーは自動起動になっていた自動入力部分のリンクを張り直した  
後で起動するところが出来なくなってしまった

(ク)正常な再起動後、手動での通信、集計を行ったが問題なく終了した。(下の図)

大画面表示機能		画面化	
登録年月日	1994/01/01	登録者名	新規登録用
登録年月日	1994/01/01	登録者名	新規登録用
データ一覧表示		今すぐバックアップ	
現在の状況		今すぐ復元	
<input checked="" type="checkbox"/> フルマー <input type="checkbox"/> パートマー		登録中	
操作選択		検索条件	
検索条件		リストア	
		終了	
0件			
<input type="checkbox"/> 選択名 <input type="checkbox"/> ファイル名			
現在の表示プロセス:			
エラーレポート作成		チェック8号	
エラーレポート作成		エラーレポート	
エラーレポート作成		エラーレポート	
処理状況 設定済み			
登録年月日 [登録者名] [登録者名] [登録者名]			
登録年月日 [登録者名] [登録者名] [登録者名]			
1994/01/01 16:44 [自動削除登録完了]			

(ケ)日計表入力を起動しようとしたところ下のダイアログボックスが出た。

(コ) 菌の異常集積は正常に起動した。病棟の入力がないため、全病院の集計になっていた。斧澤様の話では、現在、病棟が入力されるように送信側のブ

ログラムを作成中であると言うことであった。									
ル	解析日	通計	目	目名	期間	照査	属性單	依頼品各計	自古
2006/05/07	ヶ月	1312	Staphylococcus epidermidis		2006/03/25～2006/04/24	100		0.01786	25 4 0

(サ)IDの入力が無いことが分かった。カルテ番号がuniqueであるという。カルテ番号をIDに用いることが出来る。フィンガルリンク社様から健康新科学研究所

欄にID送信の依頼をして頂く。(斧澤様からも連絡)					
登録番号	操作番号	ID	カルテ番号	カバ氏名	登録日
J01	2005020101000000000109	102862			2006/01/01
J01	2005020101000000000110	104765			2006/01/01
J01	2005020301000000000126	112782			2006/01/03

資料2 協力施設の導入利用状況調査・訪問調査 83 / 108

(シ)病室の自動入力が行われていることが分かった。

(ス)MRSAがStaphylococcus aureus (1301)として報告されていることが分かった。MRSAとしての報告をしていないため、このような送り方になるとのことであった。MPIPCの感受性でMRSAとして送れないか岸瀬様に希望として出して頂くことにした。PRSPもStreptococcus pneumoniaeとして報告されてる。こちらも、出来れば、PRSPで報告して頂けないか希望として伝えた。

感染情報レポート Staphylococcus aureus (1301)						
項目	氏名	年齢	性別	入院日	経時	MPIPC
01				2006/10/01	既往症	R R R
02				2006/10/01/00109	既往歴	R R R

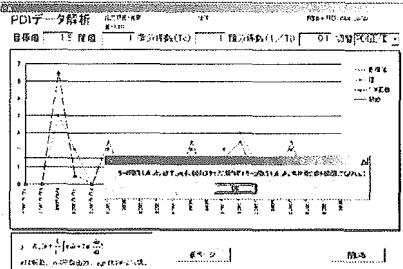
(セ)上記の問題を少しでも解決するために集計抽出指定においてMPIPCの感受性Rをフィルターとして掛けて感染情報レポートを出力したところ、フィルターが出力抗菌薬にまで掛かっており。

検査結果(件数)	Staphylococcus aureus (1301)
性別	女性
年齢	40歳
性別	女性
年齢	40歳

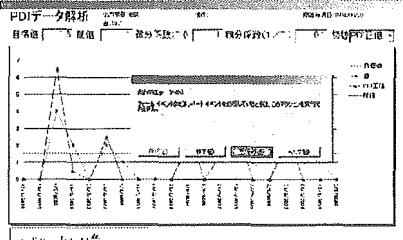
MPIPCの結果のみ出力された。この部分は、MPIPCの感受性でフィルターを掛けても他の抗菌薬の感受性の結果を出力するべきである。(要修正)

(ソ)この施設は1ヶ月の検体数が~30件であるので、前項のフィルターの適正化、問題箇所を感受性でpickupできる仕組みが出来ればある程度の機能は確保できると考えた。しかし、より検体数の多い施設での利用のためには、主な耐性菌については、それぞれの名前で報告することが運用上はスムーズである。(最終的に要件に入れるか、これらを要件に入れなくて動作するような仕組みが必要か。)

(タ)正常再起動後の検証中、PDIの係数を変えたところエラーがでた。

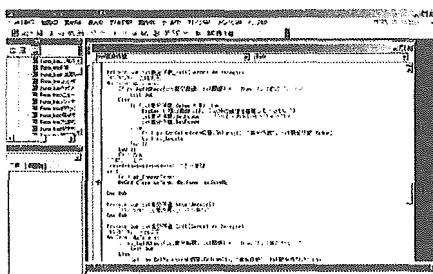


OKをクリックすると以下の画面。

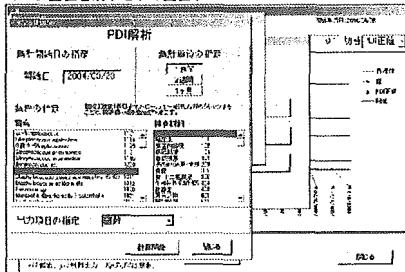


さらにバグ画面に移る。

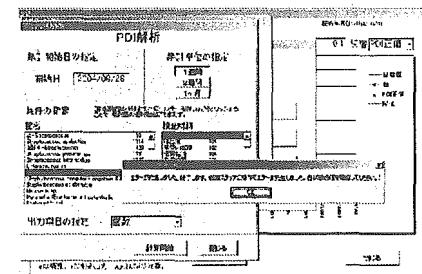
資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 84 / 108



でバグ画面を消すと下の画面。

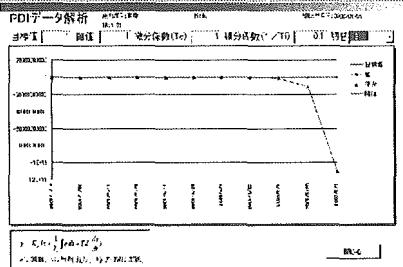


ここで閉じるをクリックするとエラーがでて、終了が出来なくなつた。



タスクマネージャーを起こして強制終了した。

(チ)PDI、積分で積分の係数(逆数)を0.1にすると異常な数値を表示する現象(他施設と同じ)が見られた。



### 3. SHIPLの管理、利用についての調整、協議

- ① 病棟が入ってこない(自動入力されない)問題については、健康科学研究所様でプログラム改良中のことであった。
- ② IDについてはカルテ番号を使って頂くことで自動入力されるようになるが、プログ

資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 85 / 108

ラムの改修が必要となるため、フィンガルリンク社様からも働きかけをして頂く。病院様からも、岸湯様を通じてお願いをすることを確認した。

- ③ 動作、利用の方法について説明を行った。菌の異常集積でpickupした菌について感染情報レポートの機能を用いて薬剤耐性パターを調べ、院内での菌の拡散か、個別例の集積であるか予測する方法などについて説明した。PDIについて説明した。
- ④ 今後の予定について概要を説明した。7月の説明、調整会で利用状況を発表頂くことをお願いした(他施設様と同様)。

#### 4. 要望などの調査

- ① 病室レベルでの管理について希望があった(この施設は過疎で病室が入ってきている。)。病室だと少人数過ぎる可能性もあるので、病棟を南北などに区切って、それを病室と管理する方法を探しました。
  - ② グラフィクスを再利用できるような仕組みが欲しい。(ラスター図形などで取り出せるあるいは、加工できるような解像度のbit mapで出力出来るようにして欲しい。)

5 種の物

現在、emailのアドレスが無いため、accountを用意して頂くことにした。

以上。  
平成17年6月3日(金)

平成17年6月3日(金)  
群馬大病院医療系研究科生体防衛機能検査臨床細菌感染制御室 藤本 修平

『厚生労働科学研究費補助金(医療技術評価総合研究事業)「院内感染の防止のための監視体制の整備、細菌検査室の機能向上に関する研究」』(中小規模病院感染症監視システム(SHIPL)開発に関する研究)、SHIPLの動作状況の調査、意見交換。

日時 平成17年8月10日(水)

午後2時～午後4時

場所 女川町立病院 横（宮城県牡鹿郡女川町鷲神浜堀切山51-6）

出席者 女川町立病院様 阿部技師長、斧澤(おのざわ)技師

群馬大学 藤本

論題等

1. SHIPL動作状況の聞き取り
  2. SHIPLの動作状況調査
  3. SHIPLの利用についての調整、協議
  4. その他

A decorative horizontal border consisting of a repeating pattern of small, square, black-and-white icons. The icons appear to be a mix of geometric shapes like squares and triangles, possibly representing a digital or abstract theme.

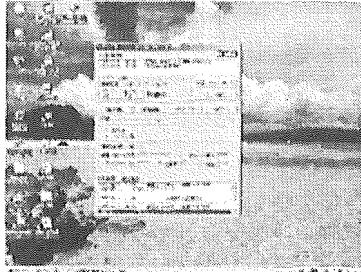
(ア) 電源は基本

- (イ) ときどき「SQLサーバーに接続できない」と言うエラーが出て突然止まっている。  
    そう言うときはサーバーそのものを再起動して対応している。

(ウ) 今のところ利用は出来ていない。

## 2. SHIPLの動作状況調査

- (ア) 自動入力プログラムは正常に立ち上がっていた。



資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 86 / 108

(イ) 検査データ修正・検索画面で検体提出日を基準に6月8日からカルテ番号がIDとして送信されていることが確認できた。

また同じ氏名の人には同じIDが振られていることも確認できた。

癌棲は入力されていなかった。診療科がないものが多かった。

カルテ番号	カナ氏名	検査提出日	検査実施日	入院日	性別	生年月日	入院分類	診療科	病棟
K5281	田中 伸也	2006/07/11	検査提出	0	男	0	入院	内	
K4266	田中 伸也	2006/07/11	毛髪分析	0	男	0	外来	皮膚科	
K5279	田中 伸也	2006/07/11	糞便検査	0	男	0	入院	内	
K5043	田中 伸也	2006/07/11	糞便内細菌	0	男	0	入院	内	
K5073	田中 伸也	2006/07/12	糞便内細菌	0	男	0	入院	内	
200000	田中 伸也	2006/07/12	糞便内細菌	0	女	0	入院	内	
6571	田中 伸也	2006/07/12	糞便内細菌	0	女	0	入院	内	
29366	田中 伸也	2006/07/12	糞便内細菌	0	男	0	外来	内	
55000	田中 伸也	2006/07/12	糞便内細菌	0	男	0	外来	内	
51003	田中 伸也	2006/07/12	毛の毛分析	0	男	0	入院	内	
81003	田中 伸也	2006/07/12	毛の毛分析	0	男	0	入院	内	
173274	田中 伸也	2006/07/12	糞便内細菌	0	男	0	外来	内	
32073	田中 伸也	2006/07/12	糞便内細菌	0	女	0	入院	内	
H4102	田中 伸也	2006/07/01	糞便内細菌	0	男	0	外来	内	
B4176	田中 伸也	2006/07/01	糞便内細菌	0	男	0	入院	内	
B4794	田中 伸也	2006/07/02	糞便内細菌	0	男	0	入院	内	

SQL enterprise managerで内容を確認した。マスター設定の問題ではなく、実際に病棟が送られていないことが分かった。(健康科学研究所様に送信の再依頼をする事になった。後述)

(ウ) 廉の墨跡複数の検査を掛けたが表示されなかつた。

資料2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 87 / 108

解析日でソートしたところ6月7日が最後の集計でその後集計がかかっていないことが分かった。(前回訪問は6月1日。)

Windowsのイベントログを調べたが、システムは継続して起動されていたようである。解析用にログ、SQLのDBを採取した。

SQL enterprise managerをもちいて集計処理日のテーブルを内容を確認した。集計済みの欄に1が入っていた。

登録日	登計簿
2005/07/06	1
2005/07/06	1
2005/06/19	1
2005/06/19	1
2005/06/21	1
2005/07/08	1
2005/07/11	1
2005/07/12	1
2005/07/13	1
2005/07/14	1
2005/07/16	1
2005/07/16	1
2005/07/17	1
2005/07/20	1
2005/07/22	1
2005/07/23	1
2005/07/24	1
2005/07/26	1
2005/07/27	1
2005/07/29	1
2005/07/29	1
2005/07/31	1
2005/08/02	1
2005/08/03	1
2005/08/09	1
2005/08/17	1
2005/08/20	1

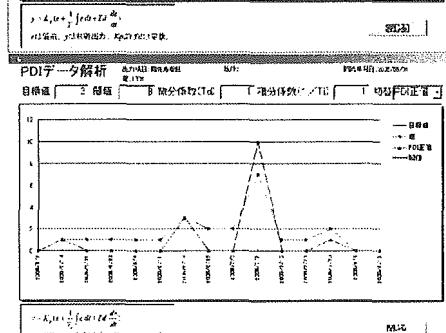
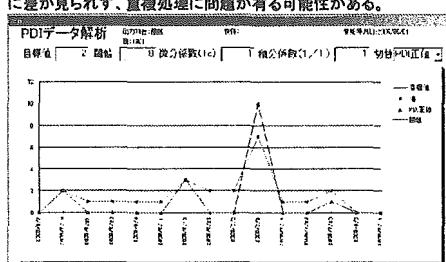
同じテーブルをAccessから見ると、-1で埋められていた。

参照したテーブルのプロパティーはそれぞれ、以下の通り。

資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 88 / 108

キー	ID	名前	データ型	サイズ	NULL	デフォルト
		処理日	datetime	8	<input type="checkbox"/>	
		算計済	bit	1	<input checked="" type="checkbox"/>	

(工) PDI解析をStaphylococcus aureusに対して行った。菌数、陽性患者数で6月以降に差が見られず、薬液加熱による影響がある可能性がある。



5月14日のプロットに差があるが、この時点ではIDは送信されておらず、この時点で差があることも説明がつかない。調査が必要である。

*Staphylococcus aureus*について、感染情報レポートを出した。同一患者から複数回の検出があり、重複処理が正しく行われていれば、菌数より陽性患者数が少なくなるはずである。

(才)他施設と同様に、集計表の重複処理が行われていなかった。

経費別割合表/八				経費別割合表/八			
品名	内	外	合	品名	内	外	合
旅費	3	5	8	旅費	3	5	8
合計	3	5	8	合計	3	5	8
申告額				申告額			
税金	14,980円(2,200円未満)			税金	14,980円(2,200円未満)		
旅費	15,000円			旅費	15,000円		
人間料外食	15,000円			人間料外食	15,000円		
託運料	15,000円			託運料	15,000円		
其の他の経費	15,000円			其の他の経費	15,000円		

資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 89 / 108

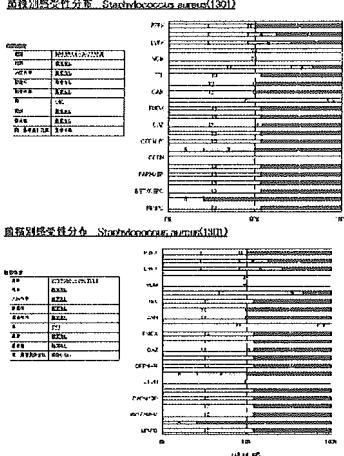
ることにした。

(ウ) 箱の具真菌樹で *S. epidermidis*が日常的にL3で指摘される。陽性率の設定が低い気がする(並澤様)。自施設のbaseline rateが使えるようになる。このため、2月分からのID付きでの再送を考慮する。10月の次バージョンで複数のbaseline rateをもつてるので、その段階で自施設のbaseline rateを算出するとともに、JANISあるいは、研究班参加の他病院のbaseline rateを利用可能にするように働きかける。

以上

平成 17 年 8 月 10 日(水)

群馬大学大学院医学系研究科生体防御機構学講座細菌感染制御学 藤本 修平



### 3. SHIPLの利用についての調査、協議

- (ア) 病棟の送信はシステムの運用上重要であるので、再度、斧澤様から健康新科学研究所様に働きかけて頂くとともに、研究班としてもNOSS corpを通して働きかけを行うことにした。

(イ) 診療科がないものは入院、健診と考えられる(斧澤様)と言うことであった。送信されている診療科を抽出してマスターと比較した。000というコードが登録されていなかった。これは、不明のコードとして送られているらしいため、そのままにす

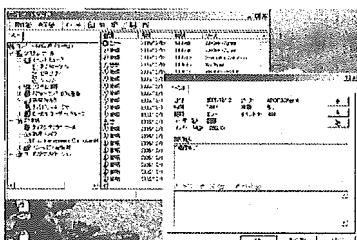
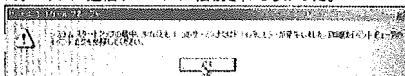
資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 90 / 108

『厚生労働科学研究費補助金(医療技術評価総合研究事業)「院内感染の防止のための監視体制の整備、細菌検査室の機能向上に関する研究」』(中小規模病院感染症監視システム(SHIPL)開発に関する研究)、SHIPL新バージョンの動作状況の調査、意見交換会。

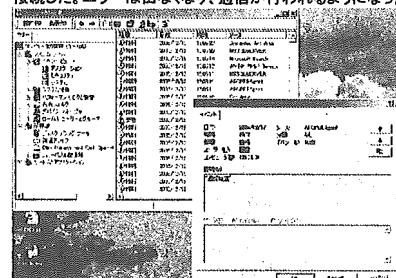
日時 平成17年12月12日(月)  
午前10時～午後3時20分  
場所 女川町立病院 横(宮城県牡鹿郡女川町鷲神浜堤切山51-6)  
出席者 女川町立病院 横 阿部技師長、斧澤(おのざわ)技師  
　　群馬大学 篠木

I. 機能に関する施設様からの指摘

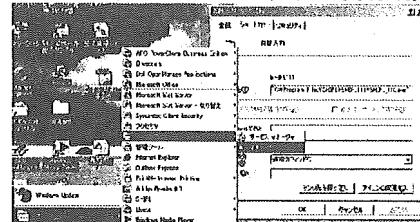
- (ア) 窓の異常集算積でカウンタされていない検体がある。
- (イ) 窓の異常集算積の自動集計が行われていない。
- (ウ) 起動時に「ドライバーにエラー…」が表示される。
- (エ) 起動時にショートカットエラーがである。
- (オ) PDI で箇号コードでのみ表示される(箇名が出ない。)。
- (カ) 病棟コードが送られない。
  - (ア) 窓の異常集算積の集計不具合に関するものであった(後述)。
  - (イ) 他施設同様。
  - (ウ) 実際に再起動したところ、エラーが表示された。UPS の通信に関するものだった。シリアル通信ケーブルが接続されてなかった。



接続した。エラーは出なくなり、通信が行われるようになった。



:(エ)ショートカットが旧バージョンのフォルダーのままだった。



資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 91 / 108

